



**令和 5 年 7 月の大雨災害
久留米市災害ボランティアセンター
活動報告書**

社会福祉法人 久留米市社会福祉協議会



はじめに

12年前、「平成24年7月九州北部豪雨」は、久留米市内にも大きな氾濫、浸水等の被害をもたらしました。久留米市社会福祉協議会では、この時に初めて「久留米市災害ボランティアセンター」を開設し、被災された方々の日常生活の回復に向けて、17日間で92件のニーズに対応、延べ446人のボランティアに活動していただきました。

その後しばらくは平穏でしたが、平成30年7月に、またしても水害（平成30年7月豪雨）が発生。

以後、令和5年7月の大雨まで、実に6年連続7回の水害に見舞われてきました。そのような中、今回の豪雨災害では、市東部で広範囲に渡る浸水被害が発生するとともに、土石流が発生。それに伴い、尊い人命が失われてしまいました。

この報告書は、久留米市で5回目の開設にあたる、令和5年度久留米市災害ボランティアセンター、119日間にわたる活動の記録です。

土石流発生という、これまで経験したことのなかった状況下での活動。

かつてなかった被災規模に対応するための大規模なサテライトの設置と運営。

地域住民や企業、団体、NPO法人など、さまざまな担い手の協力により運営する、いわゆる「協働型災害ボランティアセンター」の実現。

そして何よりも特長的な取り組みとなった、被災地域の全世帯への訪問聞き取り調査による福祉・生活課題の掘り起こし。

これらの活動は、運営にご協力、ご支援いただいた地域、企業、ボランティア団体、県内及び県外の社会福祉協議会職員、そして多くの個人の皆さんのご尽力なしには到底実現できなかったことです。

この報告書を今回の災害ボランティアセンターに携わった方々と共有し、今後起こり得る災害においても、より良い連携のもと被災者支援活動に取り組めることを願っています。また、全国で災害が頻発している中、被災された人々へ寄り添い、支援するために、多くの人々にこの報告書を読んでいただければ幸いです。

最後に、久留米市災害ボランティアセンターにご支援いただいた、全国の多くの皆様に心より感謝申し上げます。

令和6年3月

社会福祉法人 久留米市社会福祉協議会 常務理事

久留米市災害ボランティアセンター センター長 川崎 勝之

目次

1 概要	1
(1) 被害状況	
(2) 災害ボランティアセンター開設	
2 災害ボランティアセンター	4
(1) 活動実績	
(2) 運営体制	
(3) 運営支援・協力団体	
(4) 訪問調査(ローラー)	
(5) 個別支援班の対応	
3 協力団体の声	17
災害NGO 結	
ダイハツ工業株式会社 九州開発センター	
株式会社デンソー	
株式会社デンソー九州	
トヨタ自動車九州株式会社	
トヨタ紡織九州株式会社	
NPO法人 日本ホスピス・在宅ケア研究会 被災者ネットワーク	
くるめ災害支援ネット「ハッシュ#」	
4 寄付者一覧	25
5 ボランティアの声	29
6 令和5年度豪雨災害を経験して・閉所後の対応	31
(1) 被災世帯に対する訪問調査	
(2) ボランティアセンターによる対応	
(3) 個別支援チームによる対応	
7 今後について	33

1 概要

(1) 被害状況

令和5年7月7日(金)朝から10日(月)昼過ぎにかけて、九州北部の広い範囲で猛烈な雨が降り、10日(月)には福岡県に大雨特別警報が発表される記録的な大雨となった。

この大雨により、久留米市では、1時間雨量91.5mm(観測史上最大)、24時間最大降水量402.5mm(観測史上最大)を観測するなど、7日(金)から10日(月)までの総雨量は567mmとなった。

○主な経緯

7月10日(月)	
3:45	久留米市の中央部・北部・東部エリアにレベル4「避難指示」を発令
4:51	久留米市の西部・北西部エリア、土砂災害警戒区域の校区にレベル4「避難指示」を発令
7:30	大雨特別警報(浸水害)発表
7:34	久留米市全域にレベル5「緊急安全確保」を発令
9時頃	田主丸町竹野地区で土石流が発生
9:30	大雨特別警報(土砂災害)発表
13:30	大雨特別警報(浸水害)から大雨警報(浸水害)へ切替
17:30	大雨特別警報(土砂災害)から大雨警報(土砂災害)へ切替
7月11日(火)	
8:31	久留米市全域にレベル5「緊急安全確保」を解除 土砂災害警戒区域の校区はレベル4「避難指示」へ切替
7月12日(水)	
12:06	土砂災害警戒区域の校区にレベル5「緊急安全確保」発令
18:10	土砂災害警戒区域の校区はレベル4「避難指示」へ切替
7月14日(金)	
18:57	田主丸町竹野地区を除く土砂災害警戒区域の校区はレベル4「避難指示」を解除 田主丸町竹野地区はレベル4「避難指示」継続
7月28日(日)	
10:00	田主丸町竹野地区のレベル4「避難指示」解除

○ 主な被害状況

- ・ 人的被害 : 死者 2名
負傷 7名(重傷:7名)

- ・ 家屋被害 : 全壊 13棟 床上浸水 570棟
半壊 340棟 床下浸水 1,809棟
一部損壊 18棟

- ・ 道路被害 : 523箇所

- ・ 橋梁被害 : 5箇所

- ・ 河川被害 : 393箇所

- ・ 土砂災害 : 24箇所

(2) 災害ボランティアセンター開設

久留米市社会福祉協議会では、久留米市と締結している「災害ボランティアセンターの設置・運営に関する協定書」に基づき、久留米市からの要請により久留米市災害ボランティアセンターを開設し、運営及び活動を行った。

また、福岡県社会福祉協議会のほか、県内外の市町村社会福祉協議会、企業、NPOなど多くの関係機関・団体の支援を得て、協働型の災害ボランティアセンターの運営を行ったところである。

○対応経過

日付	内容
7月10日(月)	初動 久留米市社会福祉協議会・久留米市(協働推進課)で被害状況等の情報収集や今後の対応等について協議

日 付	内 容
7月10日(月)	被害状況等の確認 久留米市社会福祉協議会・久留米市(協働推進課)の職員が被災した地域に出向き、被害状況等現地を確認 併せて、各校区の社会福祉協議会と連携して被害状況を把握
	臨時部内会議 市内の被害状況等を共有するとともに、災害ボランティアセンターの開設に向けて検討 併せて、久留米市災害対策本部へ情報を提供
7月11日(火)	災害ボランティアセンター設置要請 久留米市が災害ボランティアセンターの設置・運営に関する協定書に基づき、災害ボランティアセンターの設置・運営を要請
	久留米市災害ボランティアセンター開設 ニーズ受付、ボランティア募集(県内)の開始
7月14日(金)	東部サテライト設置 久留米ふれあい農業公園にサテライトを開設
7月17日(月)	ボランティア募集範囲の拡大 ボランティアの募集範囲を福岡県内から隣接県に拡大
7月21日(金)	ボランティア募集範囲の拡大 ボランティアの募集範囲を隣接県から九州全域に拡大
7月25日(火)	ボランティア募集範囲の拡大 ボランティアの募集範囲を九州全域から全国に拡大
7月29日(土)	訪問調査開始(～8月31日) 災害ボランティアセンターの活動周知、ボランティアへ依頼したい内容や困りごとの情報収集、福祉的課題を抱える世帯の把握を目的に個別の訪問調査を開始
9月16日(土)	東部サテライト閉所 東部地域の残ニーズ数(ボランティア依頼件数)に終結の目途が立ったことから東部サテライトを閉所
10月31日(火)	久留米市災害ボランティアセンター閉所 市内全域の残ニーズ数に終結の目途が立ったことから、行政等と協議し、久留米市災害ボランティアセンターを閉所

2 災害ボランティアセンター

(1) 活動実績（令和5年10月31日現在）

ニーズ受付件数：延べ 777 件

ボランティア活動件数：延べ 975 件

ボランティア人数：延べ 7,977 人

(内訳) 個人 5,200 人、団体 216 団体 2,616 人
ナース 155 人、運営 6 人

【活動内容】

- ① 家財搬出、運搬
- ② 土砂撤去
- ③ 室内清掃

① 家財搬出、運搬

【作業内容】

水に浸かり、使えなくなった畳や家具、家電等を自宅から搬出し、災害ゴミ置場までの運搬を行った。使える家財等は別の場所に運んだり、きれいに拭き上げるなどの作業も実施。



② 土砂撤去

【作業内容】

家屋内や生活動線上の泥や土砂の撤去を行った。流れてきた木やゴミなども分別して指定の場所に運ぶなどの作業も実施。

③ 室内清掃

【作業内容】

玄関やフローリング、窓など水や土砂で汚れた部分の清掃を行った。使える家財等は拭き上げ、元の場所に戻すなど依頼者に確認をしながら実施。



【活動の様子】



大雨が降り、土砂災害が起こった直後の竹野校区の様子。



土砂災害が起こった翌日以降の竹野校区の様子。



令和5年度は、QRコードを使って受付を行いました。



一人ひとり受付でQRコードを読み込み必要事項を入力してもらいました。



受付が終わったら活動場所が決まるまで待機してもらいました。
猛暑の中だったので室内で！

申込番号	名前	内容	人数(個人)	所要時間	備考
326	田主丸	消防団 消防	15 (個人)	9:00	2台
133	水鏡	消防団 消防	9 (個人)	9:00	2台
419	田主丸	消防団 消防	10 (個人)	9:30	3台
415	水鏡	消防団 消防	12 (個人)	9:30	2台
48	竹野	消防団 消防	10 (個人)	9:30	2台
96	水鏡	消防団 消防	20 (個人)	10:00	3台
293	田主丸	消防団 消防	10 (個人)		2台
39	田主丸	消防団 消防	6 (個人)		1台
54	善寺	消防団 消防	8 (個人)		1台
290	山本	消防団 消防	10 (個人)		3台
283	善寺	消防団 消防	9 (個人)		3台

依頼者とボランティアをマッチング。
人数に応じて団体の皆さんにお願いしたり…。

【活動の様子】



活動前にはオリエンテーションを行いました。活動場所や内容、リーダー決め、活動時の注意事項などをお伝えしました。



看護ボランティアの方からは、熱中症についての注意事項を伝えていただきました。



活動には飲み物をたくさん持って行ってもらいました。
熱中症にならないように水分補給を！



持つて行く資機材もボランティアの皆さん自身で準備を！



活動場所までは、バスで送迎をしたり、トラックで行ってもらったりと様々です。



床板をはがし、床下の泥出しを行いました。

【活動の様子】



水に濡れた畳は重い!!
皆さんで力を合わせてトラックまで。



水に浸かってしまった家財道具の搬出
や災害ごみ置き場までの運搬作業もありました。



泥出しや家財道具の搬出が終わったら
きれいに拭き掃除も!



土砂で窓も泥だらけでしたが、「ボラン
ティアの皆さんのおかげで庭が見える
ようになった」との声もありました。



情報が入ってきていない人や災害VC
に依頼するのを戸惑っている人もいる
かもしれないと、一軒一軒訪ねて回りました。



小学生もボランティアに来てくれました。
子どもたちの笑顔に癒されました。
それぞれできることはある!

【活動の様子】



訪ねて回った場所や情報はわかるようにしっかり共有！



お盆期間限定で竹野校区にミニサテライトを設置しました。ダイハツ工業様の災害車両が大活躍！！



活動場所は運営スタッフでしっかり確認！



猛暑の中での活動だったので、終わった後にはかき氷を！看護学生の皆さんにもお手伝いいただきました。



活動終了後にはリーダーから活動状況を報告いただきました。
完了か継続か、依頼者の様子なども…。



使った資機材はしっかり洗浄！

【活動の様子】



かき氷を提供するボランティア団体も
かけつけてくれました
子ども店長の姿に皆さん自然と笑顔
に!



JR 久留米駅周辺でボランティア募集
を呼びかけるボランティアもいました。
支援の形は様々です。

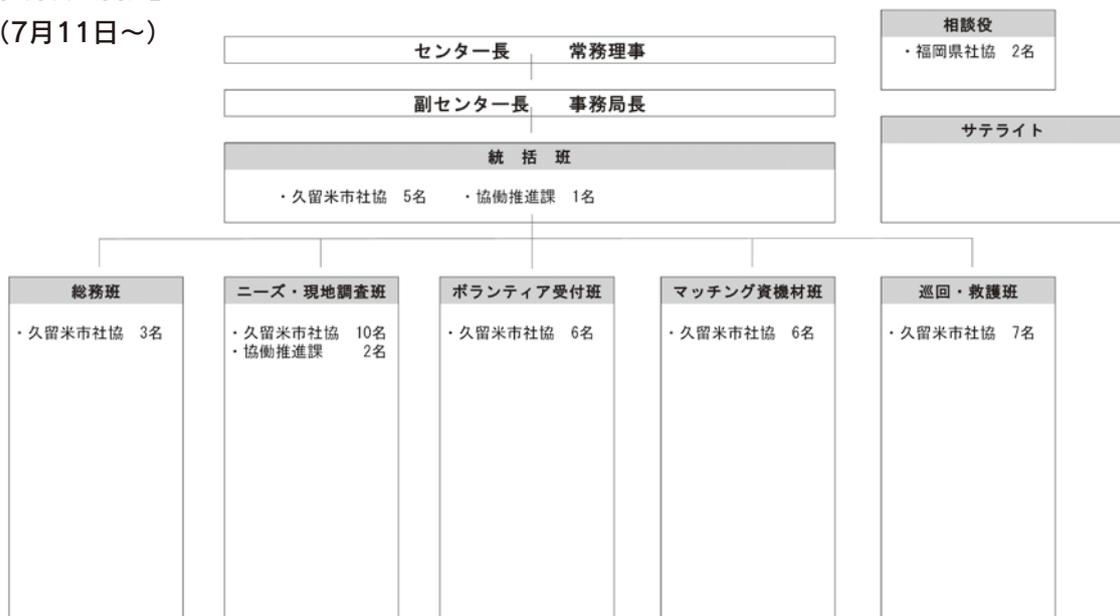
(2) 運営体制

役職／班	役割
センター長	・ 全体の統括
副センター長	・ センター長の補佐 ・ 行政や県社協との調整
統括班	・ センター運営に必要な情報の収集と集約 ・ 行政、県社協、企業、NPO との連絡調整 ・ 報道機関等の問い合わせ対応 ・ 運営スタッフの配置、調整 ・ 活動の集計、報告
総務班	・ 災害 VC 全体の管理 ・ 会計管理 ・ 活動に必要な資機材の調達 ・ 情報発信 ・ ボランティア活動参加証明書の発行 ・ ボランティア車両証明書への押印 ・ 寄付預託受入れ

役職／班	役割
ニーズ・ 現地調査班	<ul style="list-style-type: none"> ・ ニーズの受付 ・ ニーズの現地調査 ・ ボランティア依頼票の作成 ・ 活動場所の住宅地図の添付 ・ 活動完了確認
ボランティア 受付班	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアの募集 ・ ボランティア活動希望者の調整及び受付 ・ ボランティア活動保険加入のチェック
マッチング・ 資機材班	<ul style="list-style-type: none"> ・ ニーズとボランティア活動希望者のマッチング ・ オリエンテーション、活動案内 ・ 資機材の貸出、回収、管理 ・ 資機材の運搬(現地まで) ・ 車両管理 ・ 車両の手配、確保 ・ ボランティア活動希望者の現地までの移動手段調整(送迎含む)
巡回・救護班	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害ボランティアの救護活動や健康管理 ・ 被災者の体調確認、困りごとの把握
個別支援班	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉的な課題をもつ世帯等に対し、各関係機関等と連携して必要な支援を実施 (7月29日から)
サテライト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害VC本部と同様(※総務班の役割は除く)

【開設当初】
(7月11日～)

令和5年度災害ボランティアセンター組織図



【東部サテライト開設時】（7月14日～）

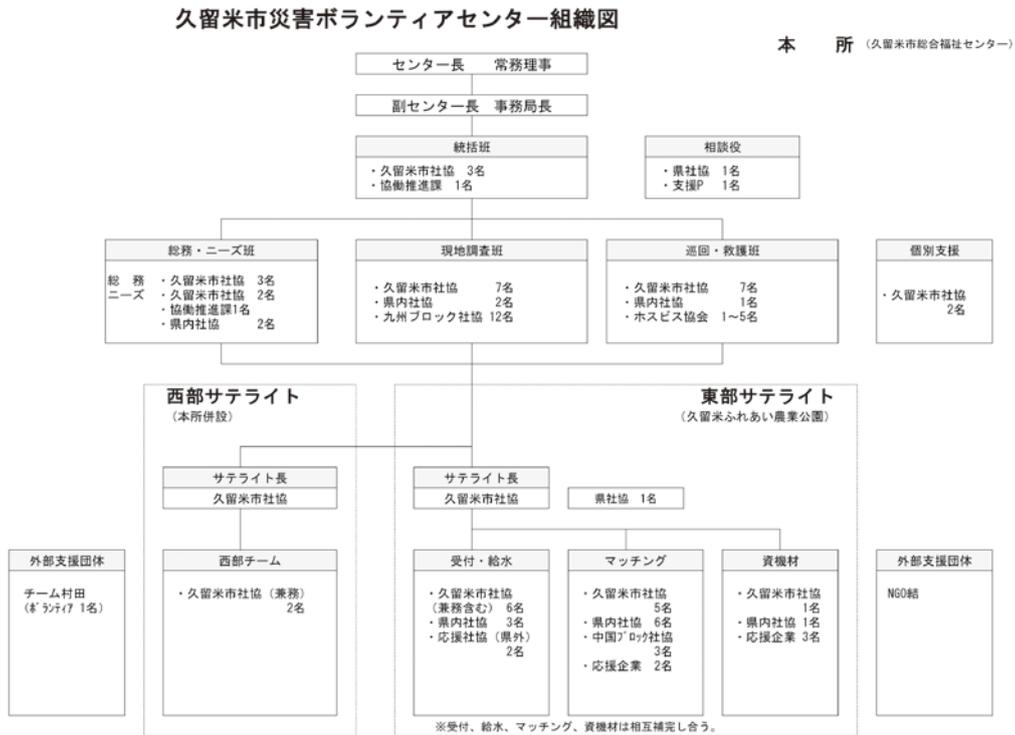
令和5年度災害ボランティアセンター組織図（本部）



令和5年度災害ボランティアセンター組織図（東部サテライト）



【個別支援班配置時】（7月29日～）



(3) 運営支援・協力団体

災害ボランティア活動支援プロジェクト会議(支援P) 3人

【福岡県内】

福岡県社会福祉協議会
直方市社会福祉協議会
柳川市社会福祉協議会
行橋市社会福祉協議会
筑紫野市社会福祉協議会
宗像市社会福祉協議会
福津市社会福祉協議会
糸島市社会福祉協議会
篠栗町社会福祉協議会
新宮町社会福祉協議会
芦屋町社会福祉協議会
桂川町社会福祉協議会

北九州市社会福祉協議会
飯塚市社会福祉協議会
筑後市社会福祉協議会
中間市社会福祉協議会
春日市社会福祉協議会
太宰府市社会福祉協議会
宮若市社会福祉協議会
那珂川市社会福祉協議会
志免町社会福祉協議会
久山町社会福祉協議会
水巻町社会福祉協議会
大刀洗町社会福祉協議会

福岡市社会福祉協議会
田川市社会福祉協議会
大川市社会福祉協議会
小郡市社会福祉協議会
大野城市社会福祉協議会
古賀市社会福祉協議会
みやま市社会福祉協議会
宇美町社会福祉協議会
須恵町社会福祉協議会
粕屋町社会福祉協議会
岡垣町社会福祉協議会
添田町社会福祉協議会

大任町社会福祉協議会
上毛町社会福祉協議会

苅田町社会福祉協議会
築上町社会福祉協議会

みやこ町社会福祉協議会

計 41 社会福祉協議会

【九州ブロック】

鳥栖市社会福祉協議会
長崎県社会福祉協議会
対馬市社会福祉協議会
長与町社会福祉協議会
熊本県社会福祉協議会
荒尾市社会福祉協議会
宇土市社会福祉協議会
御船町社会福祉協議会
芦北町社会福祉協議会
大分県社会福祉協議会
臼杵市社会福祉協議会
宇佐市社会福祉協議会
宮崎県社会福祉協議会
小林市社会福祉協議会
西都市社会福祉協議会
美郷町社会福祉協議会
鹿児島県社会福祉協議会
薩摩川内市社会福祉協議会
肝付町社会福祉協議会
沖縄県社会福祉協議会

鹿島市社会福祉協議会
長崎市社会福祉協議会
西海市社会福祉協議会
熊本市社会福祉協議会
玉名市社会福祉協議会
宇城市社会福祉協議会
嘉島町社会福祉協議会
球磨村社会福祉協議会
別府市社会福祉協議会
竹田市社会福祉協議会
九重町社会福祉協議会
宮崎市社会福祉協議会
日向市社会福祉協議会
えびの市社会福祉協議会
五ヶ瀬町社会福祉協議会
鹿児島市社会福祉協議会
いちき串木野市社会福祉協議会

みやき町社会福祉協議会
大村市社会福祉協議会
南島原市社会福祉協議会
八代市社会福祉協議会
菊池市社会福祉協議会
菊陽町社会福祉協議会
山都町社会福祉協議会
佐伯市社会福祉協議会
豊後高田市社会福祉協議会

都城市社会福祉協議会
串間市社会福祉協議会
西米良村社会福祉協議会

阿久根市社会福祉協議会
始良市社会福祉協議会

計 51 社会福祉協議会

【中国ブロック】

広島市社会福祉協議会
江田島市社会福祉協議会
岡山県社会福祉協議会
鳥取県社会福祉協議会

福山市社会福祉協議会
岡山市社会福祉協議会

三原市社会福祉協議会

計 7 社会福祉協議会

【独自派遣】

延岡市社会福祉協議会

倉敷市社会福祉協議会

計 2 社会福祉協議会

(4) 訪問調査（ローラー）

【目的】

- ①災害ボランティアセンターの活動周知
- ②ボランティアへ依頼したい内容や困りごとの情報収集
- ③継続的な見守り支援

【実施期間】

令和5年7月29日～8月31日(計30日)

【実施体制】

- ・久留米市災害ボランティアセンター現地調査班
- ・応援社協(九州ブロック)

【活動内容】

- ①各戸訪問し、災害ボランティアセンターのチラシ配布とニーズの掘り起こし、生活課題の聞き取り(不在の場合はポスト投函)
- ②ボランティア依頼があった場合は、ニーズを聞き取り、現地調査を実施
- ③災害以外に支援が必要と思われる場合は、「気になるシート」に記入
※「気になるシート」は個別支援班と共有
- ④訪問世帯をゼンリン住宅地図に記入

【活動実績】

校区	実施 日数	訪問世帯			ニーズ 件数	気になるシート件数		
		対面	不在	計		対面	不在	計
高良内	1日	17	16	33	0	2	0	2
善導寺	5日	491	633	1,124	2	3	2	5
大橋	3日	219	162	381	2	2	0	2
水分	4日	305	405	710	2	3	2	5
柴刈	2日	146	109	255	3	1	0	1
川会	1日	95	62	157	4	2	1	3
竹野	4日	430	282	712	12	7	13	20
水縄	2日	195	117	312	5	0	2	2
田主丸	7日	644	921	1,565	29	7	6	13
北野	3日	565	430	995	2	0	0	0
大城	1日	165	182	347	0	1	0	1
犬塚	3日	400	391	791	3	8	3	11
合計		3,672	3,710	7,382	64	36	29	65

(5) 個別支援班の対応

今回の災害では、新たに個別支援班を設置し、気になる世帯への訪問や関係機関等へのつなぎを行いました。

ニーズ・現地調査班が災害ボランティアに関するニーズを把握する際に気になる世帯があった場合、個別支援班につなぎ、そこから訪問し、関係を築きながら困りごとの把握や必要な支援について関係機関と連携しながら解決に向けて取り組みました。

久留米市社会福祉協議会は、久留米市から重層的支援体制整備事業を受託しています。災害時もそういった日頃の活動を通して、被災された皆さんが少しでも安心した生活を送れるように寄り添っていくことが、社会福祉協議会が災害 VC を担う意義だと考えています。

【相談件数】

120 件

(内訳) ニーズ受付 56 件、訪問調査 54 件、貸付相談 10 件

【気になるシートを活用した支援について】

今回の災害では、家屋の復旧以外にも、生活再建に向けて直面する困りごとや本来抱えておられた福祉ニーズと相まって寄り添った支援が必要な被災者世帯が相当数にのぼるものと予想されました。そこで現地調査やローラー調査においては、被災者からの聞き取りや調査員の見立てにより得られた世帯の情報を気になるシートとして管理し、それらを活用して個別支援班の活動を展開していきましました。

主な活動としては、被災者家屋の修理解体や転居に関する手続き支援、被災の精神的ショックによりボランティアの依頼が困難な世帯へ対する伴走支援、多機関連携による福祉課題の情報共有や役割分担などが挙げられます。

また、訪問を契機に、過去に相談支援機関に相談歴があったものの支援に至らなかった世帯の繋ぎ直しも行うことができました。

(気になるシートの例)

- ・被災前からのごみが溜まっている。
- ・姪と二人暮らしの男性。姪はひきこもりの様子。
- ・80代の女性、夫と息子と三人暮らし。長期間入浴していない様子。夏だが、厚手の長袖のジャンパーを着用している。
- ・認知症の疑い。野良猫5匹の死骸がそのままになっている。
- ・母、息子(20代)、娘(20代)の三人暮らし。娘は学校卒業後ひきこもり、近所の人も見かけたことがない。

【連携先】

- ・市役所(関係各課)
- ・地域包括支援センター
- ・障害者基幹相談支援センター
- ・災害支援NPO法人 等

【対応（具体例）】

【世帯構成】

80代の本人と妻、50代の子2人(長男、長女)の4人世帯

【発災当時の状況】

床上浸水(80cm以上)の被害。(中規模半壊の判定)

【災害ボランティアセンターの支援】

災害ごみの搬出、床下の泥出し



【世帯状況】

長男の就労収入と本人と妻の年金で生活しており、困窮はしていないが、余裕があるわけでもない状況。長女は就労していない。

長男は仕事が忙しく、長女は物事を整理して行動することが難しいため、本人が生活再建にかかる諸手続きを任されていた。YNF(※)が主催したイベントで、本人が弁護士に生活再建について相談し、弁護士からアドバイスを受ける。しかし、手続きがなかなか進まない状況だった。

また、弁護士相談の中で、本人が自身及び妻の身体的な不安や、長女の心配などを口にされていた。

上記から、ボランティアによる支援以降も長期的な伴走支援が必要と思われたため、個別支援班で対応を開始した。

【個別支援班による伴走支援】

公営住宅への転居は、本人が希望する地域の空きがなく、断念。建て直しも経済的な理由から断念し、現住居に住み続けることとなった。

畳の張替費用などの工面が難しい状況であったため、被災者生活再建支援制度及び応急修理制度の申請を案内。手続きの際は個別支援班が同行した。

また、本人及び妻から「手すりをつけたい」「足腰が弱ってきているので、リハビリをしたい」などの希望があった。介護保険申請をしていなかったため、地域包括支援センター(以下、「包括」という。)と同行訪問した。その後、包括が介入し、介護保険を申請した。

※YNF 2017年7月に発生した九州北部豪雨の災害支援をきっかけに設立された「在宅被災世帯」を中心に支援活動を行っているNPO団体(YNF ホームページより)

3 協力団体の声

令和5年7月の大雨災害では、多くの企業、NPO、NGOの皆様にご協力いただきました。平成30年から毎年のように被災している久留米市ですが、今回は規模も大きく、これまで経験したことのない土砂による被害もあり、不安もありました。

しかし、企業や団体の皆さんがすぐに駆けつけ、災害VCの立ち上げから協力していただいたことは、大変心強く、励みとなりました。

災害VCに関わるきっかけや活動を通じてどのように感じたか聞かせていただきましたので、紹介いたします。（敬称略・五十音順）

災害 NGO 結

【参加日数】 156日

【参加延べ人数】 312人

【活動内容】

- ・技術案件対応(重機・チェーンソー・家屋・ブロック塀撤去等)
- ・NPO等の調整

【参加のきっかけ】

これまで何度も災害を経験している久留米市ですが、今年の災害はこれまで以上に土砂崩れ、家屋対応が必要な被害が広がっていました。

また、福岡県(うきは市・朝倉市・東峰村・広川町・那珂川市)をはじめ、大分県(日田市・中津市)や佐賀県(佐賀市・唐津市)と九州北部地方に広範囲に被害が広がっており、支援体制が厳しくなると考え、少しでも被害の大きかった地域へのフォローができればと思いました。

【実際に活動して】

発災直後、市社会福祉協議会 地域福祉課の担当と被害の大きかった田主丸地域を回り、顔つなぎをしてもらったことで、早いタイミングで支援活動に入れました。

また、災害直後は行政がなかなかNPOの活動への理解が難しかったようですが、市協働推進課の協力もあり、少しずつ行政の理解も深まったと思います。

【今後について】

昨年からは佐賀県基山町に九州の拠点を置きました。

拠点には、技術系の活動に必要な資機材や研修に使える模型、今後は基山付近で重機やチェーンソー・高所作業など対応できる人材育成(NPO・消防有志)も行なっていく予定です。

災害が起こる前から、行政も含め研修や講習会など、顔の見える関係を築き、大規模災害が発生した際は連携できる関係を築けたらと思っています。



ダイハツ工業株式会社 九州開発センター

【参加日数】 47日

【参加延べ人数】 103人

【活動内容】

・東部サテライトの立ち上げ

(1) 電源・水源確保: 電源安定供給(分電盤)

機材洗浄・クーラー水源の供給

(2) 暑熱対策: 冷水クーラー、スポットクーラー設置

・資機材班: 資機材の貸出・洗浄・分別・数量確認・修理等

・ミニサテライトの設置検討(災害指揮車・電源車)



【参加のきっかけ】

2017年7月の朝倉の豪雨被害による災害復旧ボランティアに当センターの社員が参加したのをきっかけに当センターでの災害ボランティア活動がスタートしました。その後、この久留米の地での水害の頻度や被災状況から災害時の備えについて考えるようになり、トヨタ九州様の紹介でのボランティアコーディネーターの研修に参加しました。社協、市役所、NPO、NGOの団体の方と連携した災害対応について情報交換していく過程で、企業(軽の自動車会社)として地域貢献できる部分が多くあると感じ災害対応車両の製作に至り、今回の災害VC参加となりました。

【実際に活動して】

災害ボランティアの皆さんの復旧に対する熱い思いを肌で感じることができ、人の優しさ、助け合いの大切さ、数の力の偉大さを改めて実感することができました。また、被災者とボランティアを繋ぐ立場としてそれぞれの思いを知ることで「配慮する・寄り添う」ということの難しさ、奥深さも実感しました。

さらに平時には想像のつかない課題やトラブルが多く発生し、限られた資材や時間、環境の中で最善の策を講じることの大事さ、大変さ、難しさの学びがありました。中でも最も大事なことは平時の繋がり(連携)とその広がり(仲間)であることを実感しています。

【今後について】

今回の災害対応を通じで社外の多くの方々と繋がりができ、会社としても、参加者個人としても多くの得るものがありました。自動車会社としての防災・減災・災害対応についての検討と改善は継続して推進していこうと思います。

一方で、もっと地元企業や住民、行政が協力して災害に立ち向かう、又、日頃から防災について議論、連携できるような久留米防災都市(コミュニティ)が確立できれば、更にできることや助け合えることは増えると思います。「自分たちの町は自分たちで守る」が実現できるように今後も微力ながら防災普及や災害対応に参画していきたいです。

是非、コミュニティ設立に向け社協にも市や関連団体、NPO、企業への働きかけ、牽引をお願いしたいと思います(もちろん協力します)。

株式会社デンソー

【参加日数】 9日

【参加延べ人数】 9人

【活動内容】

- ・資機材班:資機材の貸出・管理、返却時の数量確認、不足資機材の配達、資機材・トラックの洗浄
- ・駐車場対応:駐車場への誘導
- ・その他:ボランティアを現地まで送迎、処分する家具の搬出・輸送、土砂の運搬 等



【参加のきっかけ】

社会貢献活動の一環で被災地支援活動に取り組んでおり、2018年から災害ボランティアコーディネーターとして社員派遣を実施しています。

今回の災害で何か支援できないか検討していたところ、支援P(災害ボランティア活動支援プロジェクト会議)からの紹介やトヨタ自動車九州(株)より支援要請をいただき、参加することになりました。

【実際に活動して】

駐車場誘導や資機材の貸出、送り出し等でボランティアの皆さんと接する機会が多く、被災者の皆さんへ寄り添って活躍される姿に大変感銘を受けました。久留米市にはとても温かい方が多く、「少しでも力になりたい」という気持ちが強まりました。

ボランティアの皆さんが戻ってくるタイミングが同じになることが多く、資機材の返却が煩雑になることもありました。他の災害VCでは、ボランティアの方にも資機材の洗浄など協力いただくこともあるため、資機材班の効率的な運営方法をもう少し検討できたらよかったです。

久留米市社協をはじめ、スタッフの皆さんの細やかな心遣いのおかげで活動を頑張ることができました。

【今後について】

今後も被災地支援活動に力を入れていく予定であるため、また何かお力になれることがあれば、お声かけください。

復興の道半ばかと思いますが、一日でも早い復興を祈念しています。

株式会社デンソー九州

【参加日数】 9日

【参加延べ人数】 18人

【活動内容】

- ・資機材班：資機材の貸出・管理、返却時の数量確認、不足資機材の配達、資機材・トラックの洗浄
- ・駐車場対応：駐車場への誘導
- ・その他：ボランティアを現地まで送迎、処分する家具の搬出・輸送、土砂の運搬 等



【参加のきっかけ】

被災地へのボランティア体制が整っておらず、今後の活動を検討している最中に久留米にて災害が発生しました。

何かできないかと思案していたところ、トヨタ自動車九州から支援要請があり、親会社(株式会社デンソー)へ協力を依頼し、共同で活動することになりました。

【実際に活動して】

ニュースで見聞きするだけでは被災地の実態はわからないということを今回の活動を通じて実感しました。

被災地のために活動するすべての方がボランティア精神に富み、人と人とのつながりがとても豊かで、素晴らしい活動であると感じました。

今回の活動を通じてボランティアコーディネーターに求められる活動も理解でき、支援活動をしながら自らも経験させていただきました。

【今後について】

今回がボランティアコーディネーターとして初めての活動になりました。

日本全国、いつどこで災害が発生するかわからないので、災害ボランティア体制を整え、少しでも被災地の役に立てるよう、準備を進めていきたいと思っております。まだまだ知識・経験が不足していますので、様々な活動を通じて試行錯誤していきたいと思っています。

復興までまだまだだと思っておりますが、微力ながらお手伝いできることがあると思っておりますので、またお声かけください。

トヨタ自動車九州株式会社

【参加日数】 48日

【参加延べ人数】 117人

【活動内容】

- ・資機材班：資機材の貸出・洗浄
 - ・駐車場対応：ボランティア参加者の車両誘導
- ※災害VCに対して車両3台、アイスBOXを貸出



【参加のきっかけ】

社会貢献活動の一環として参加しました。
困っている方への手助けができればとの思いです。

【実際に活動して】

今回初めて参加しましたが、イメージ通りにはいかないことが多く、連携やコミュニケーションの大事さを経験しました。

土地勘がないことで災害ゴミ置場の場所がわからず、すぐに対応ができなかった。

【今後について】

今回の経験を活かし、素早くボランティアセンターの立ち上げや作業内容の把握を行い、コミュニケーションをとりながら市社協や他企業との連携を進めていきたい。

トヨタ紡織九州株式会社

【参加日数】 3日

【参加延べ人数】 3人

【活動内容】

- ・マッチング班: ボランティア参加者のマッチング、現場説明、配車 等



【参加のきっかけ】

会社で運営ボランティアの募集があり参加しました。



【実際に活動して】

被災地(現場)へのボランティア参加も行なったが、被災状況を見て、個人(自分たちだけ)での復旧は厳しい状況だった。ボランティアによる復旧支援は必要だと感じた。

【今後について】

今後も協力し、少しでも被災地での手助けができるようにしたいです。

NPO 法人 日本ホスピス・在宅ケア研究会

被災者支援ネットワーク

【参加日数】 58日

【参加延べ人数】 198人

【活動内容】

- ・活動前の体調チェック・食事持参の確認、必要あれば購入(声掛け)
- ・ポスター・パンフレット(看護師作成)を使用し、オリエンテーションで注意喚起(休息の必要性・負傷・体調不良時・現場で発生している虫等)
- ・ボランティア活動出発後は社協・他支援スタッフへの体調確認、声掛け、血圧測定等、休息の声掛け、駐車場担当スタッフへ給水と体調観察
- ・活動現場での救護要請時は、社協スタッフとともに現場へ臨場
- ・ボランティア帰着時の観察、体調不良者への対応、必要時救急要請

【参加のきっかけ】

7月11日に久留米市災害VCが設置されたのをテレビで知り、久留米市社会福祉協議会に直接電話で問い合わせをしました。

これまでの災害ボランティアセンター救護班活動(広島、館山、長野等)の経験が活かせると思って参加しました。



【実際に活動して】

- ・災害VCの現場はスタッフの疲労蓄積が著明であり、熱中症発症のスタッフもあり、救護としてスタッフへの休息の声掛けは必要であると実感した。
- ・災害の救護支援が初めての看護師が大半で、この支援をきっかけに自身の地元で発災した時には、被災者支援はもちろんであるが、「ボラセン救護が必要であることがわかった」という声が聞かれた。

【今後について】

- ・医療関係者を計画的に確実に配置するためには、各自治体と社会福祉協議会が、看護協会や医師会等と日頃から地域ネットワークを構築しておく事が必要と思われる。
- ・今後も、福岡県内で救護班が必要とされるような災害時には、参加させていただきたい。

くるめ災害支援ネット「ハッシュ#」

【参加日数】 90日

【参加延べ人数】 約300人

【活動内容】

電話対応、ニーズ調査、ボランティアのコーディネート、不足している資機材の情報交換、被災者からの家屋以外の課題（公的支援制度、医療、介護など）の相談対応、紹介（つなぎ）等を行いました。



【参加のきっかけ】

2012年の豪雨災害以来、災害ボランティア活動に関する研修を受講した学生らと共に各地の災害ボランティアセンターの運営に参画するようになりました。



【実際に活動して】

今回は特に被災件数が多く、対応に難しさを感じました。

これまで連携しながら活動していた他のボランティア団体もそれぞれの自治体での災害支援に対応しており、これまでのように一緒に活動する体制が取れず苦慮しましたが、このような中でもハッシュ内での人材育成につながったことや、新たに連携・協力し合える団体や事業所とつながったことは幸いでした。

市社会福祉協議会からは、ハッシュが活動しやすいよう様々な準備・調整をいただき、災害時だからこそか、こちらからの要望に柔軟に対応いただいたことも感謝しています。

【今後について】

他の被災地で活動していた支援団体等と意見交換した中で、技術系の団体と地元社協（災害ボランティアセンター）が一緒に活動したことがスムーズな被災者支援につながったとの報告を受けました。

久留米市でも同じような形で災害ボランティアセンターを運営できれば、より効率よく支援が進むのではと思いました。

ハッシュも今回の災害対応で人材育成が進んだり、新たな仲間も増えたことから、市社会福祉協議会と強い結びつきを持てればと思います。

また、今回の災害では家屋以外にも多くの被害が発生し、従来の災害ボランティアセンターでは活動対象外になってしまうこともありました。のちに市が「農地復旧ボランティアセンター」を立ち上げ、ニーズの受け皿ができたことは良かったと思います。ハッシュなどの災害時の支援団体がこうした困りごとの相談にのることもできたのではと思い、そうした役割も担えるよう準備したいと思います。

4 寄付者一覧

今回の豪雨災害でも多くの企業・団体・個人の皆さんから寄付をいただきました。
全国各地からのご支援、本当にありがとうございました。
ご寄付いただいた方をご紹介します。（敬称略・五十音順）

■寄付金

国際ソロプチミスト久留米アウラ
荘島校区生涯学習みどり学級
荘島校区女性の会
荘島校区中央西自治会
真如苑
高木 浩
高原町赤十字奉仕団
(一社)地域パートナーシップ支援センター
(福)日本傷痍者更生会
花上 尚代
ライオンズクラブ カレー&ラーメン交流会

■助成金

(公財)大和証券財団

■物品寄付

寄付者	内 容
あいおいニッセイ同和損保(株)	軍手、タオル、ブルーシート
(株)アイスジャパン	パンチクール
アウディ久留米	大型扇風機
(株)あわしま堂	生洋菓子
綾部 章子	麦茶、お茶、きゅうりの浅漬け
伊藤塗装店	スポーツ飲料
茨城県理美容生活衛生同業組合	タオル
梅居産業(株)	不織布作業着、シューズカバー、マスク
ウヤマ産業(株)	不織布ジャンパー、パンツ、ヤッケ
浦田 光男	クーラーボックス、工具、ブルーシート
エスピーシー九州理美容事業協同組合	タオル
エフコープ生活協同組合	お茶、スポーツ飲料、タブレット、タオル
エトウ商事	ペールバケツ

寄付者	内 容
太田 雅二	スイカ
太田 世志恵	タオル
(株)大塚製薬工場	OS-1、OS-1 ゼリー
大坪 康子・いのうえ塗装	スポーツ飲料
大場 将吾	水、スポーツ飲料、塩タブレット、食品等
沖縄県社会福祉協議会	塩分チャージタブレット
(株)オリエンタル歯科器材	医療用手袋
覚本 将紀	麦茶、水、OS-1
嘉島町社会福祉協議会有志	スポーツ飲料
(公財)風に立つライオン基金	飲料、カステラ
上津校区社会福祉協議会	タオル
北九州中小企業経営者協会	タオル
木村 健士	防塵マスク
キリンビバレッジ(株)九州地区本部	飲料
熊本県立鹿本商工高等学校	手製の鍬
熊本市社会福祉協議会	炭酸飲料
グリーンコープ生協ふくおか	水、飲料、塩飴、食料品
久留米ガス(株)	小型冷蔵庫
久留米市従業員労働組合連合会	冷蔵機能付クーラーボックス
久留米第一自動車学校	タオル
国際ソロプチミスト 久留米アウラ	マスク、除菌シート、軍手、蚊取り線香、タオル
災害支援「太田の輪」	土嚢袋
作新学院園児・児童・生徒・教員一同	タオル、作業用軍手
静岡市議会自由民主党市議団	高圧洗浄機
(公財) Civic Force	スリッパ、懐中電灯、軍手、ブルーシート、シャンプー、おしり拭き、麦茶、スポーツ飲料
JAIFA	OS-1、麦茶、水
写真洗浄あらいぐま佐賀	水、麦茶
(株)ジャパネットたかた	冷却ベスト、スマートエコアイス
JAM九州・山口	スポーツ飲料、麦茶
(福)潤生園 やすらぎの家 荻窪	雑巾
(有)ショウエイ環境	タオル
荘島校区社会福祉協議会	スポーツ飲料、お茶
真浄寺	タオル
簾 颯人	飲料、オロナミン、水
造園植芳	お庭掃除用シート

寄付者	内 容
第三設備工業(株)	タオル
大正製薬(株)	リポビタンアイススラリー
高橋 伴和	ウェットシート、汗拭きシート、ふきん
TKC(株)	土嚢袋、水、スポーツ飲料、おむつ等
寺口 利雪・真理子	タオル
永田 ハツ子	タオル
長門石保育園	タオル
長門石保育園 保護者	タオル
長浜ローターアクトクラブ	タオル
西木 まゆみ	たわし、雑巾、ゴム手袋等
日産自動車九州(株)	飲料水、タオル
(一社)日本福祉理美容安全協会	タオル、マスク、グローブ
日本ホスピス在宅ケア研究会熊本支部	生理用品、蚊取り線香、ボディシート、飲料
日本遊技関連事業協会九州支部	飲料
野上 まり	タオル
延岡市社会福祉協議会	スポーツ飲料、噴霧器、炭酸飲料、消毒次亜塩素酸水
(株)博報堂コネクト	健康飲料リポビタン
橋本 浩子	くるめんべい
(株)パソナ	サーキュレーター、冷却スプレー、冷却パック、麦茶 スポーツ飲料、防塵マスク、ネッククーラー パウンドケーキ、除菌ティッシュ
株式会社パソナ盛岡支店	サーキュレーター
花澤 光子	雑巾
はなみずき(株)津野 秀吉	アイスクリーム
(特非)バルビー	飲料、お茶、スポーツ飲料、水
半田青果 代表 半田 裕基	バナナ
(一社)ひかりプロジェクト	タオル
東広島市社会福祉協議会	OS-1
(株)肥後産業 丸善グループ	飲料
(一社)ピースボート災害支援センター	おしぼり、水、スポーツ飲料、麦茶
人吉市	ボディシート、ウェットタオル、長靴、タオル、土嚢袋
人吉市社会福祉協議会	ボディシート
平井内科医院	スポーツ飲料
尋木 由美	生理用ナプキン
フィットネスクラブネオ	タオル
福岡県立小倉工業高等学校生徒一同	鋤簾

寄付者	内 容
福岡ソフトバンクホークス	フェイスタオル
福岡地区カトリック女性の会	タオル
(特非)フードバンクくるめ	アルコールジェル、タオル、水、ジュース、お茶 スポーツ飲料、カルピスキッズ、ういろう
(一社)ぷらっとどっと	カレー、ホットサンド
(株)プレシア	焼菓子
(株)プレホーム	作業服
Hair&body kato	シャンプー、リンス、石鹸
宝来メディック(株)・明宝技研(株)	消臭液
ボナペティ	タオル
ポーラ	雑巾
三井タオル(株)	タオル、マット
三木市社会福祉協議会	冷凍庫、飲料
三潞校区まちづくり振興会	タオル
光行 正則	スイカ
宮地 陽子	タオル
三和建设(株)	塩ゼリー
宮崎県社会福祉協議会	OS-1
明治安田生命保険(相)	タオル
薬真寺 真理枝	タオル、雑巾
八代市社会福祉協議会	飲料
ヤマモト・ビストロイイダ	お弁当
吉岡 稔	タオル
ライオンズクラブ国際協会337-A地区	OS-1、麦茶、スポーツ飲料、塩飴
ライオンズクラブ国際協会337-B地区	飲料
(一社)リバイブジャパン	OS-1
(株)リファイン九州	お茶、水、軍手
両筑製氷冷蔵(株)	氷
連合福岡 北筑後地域協議会	麦茶、スポーツ飲料、ゼリー飲料
(株)渡辺商会・渡辺プロパンガス(株)	タオル

5 ボランティアの声

令和5年7月豪雨災害では、大変多くのボランティアの皆さんが駆けつけてくださり、被災された家の片付けなど、生活環境回復にご協力いただきました。

「他人ごとじゃない」そんな思いが…めぐり、届く
 「これまでのつながりや文化を守りたい」地域愛が…めぐり、広がる
 「たくさんの人に支えてもらって前を向ける」人のぬくもりが…めぐり、支える
 「私のまちも助けてもらった」恩送りのやさしさが…めぐり、つながる

ボランティアの皆さんの声や思いが届くようにと、災害VCの待機場所やホームページで『めぐるくるめ』を掲載しました。その一部を紹介します。



久留米市災害ボランティアセンター

「他人ごとじゃない」そんな思いが…めぐり、届く
 「これまでのつながりや文化を守りたい」地域愛が…めぐり、広がる
 「たくさんの人に支えてもらって前を向ける」人のぬくもりが…めぐり、支える
 「私のまちも助けてもらった」恩送りのやさしさが…めぐり、つながる

より多くのボランティアのお力が必要です
 あなたの「できる」が被災者の「生きる」につながります

7月24日（月）
 久留米広域消防職員協議会の皆さん

久留米市災害ボランティアセンターでボランティア活動を行うのは今回が2回目です。目標はそれぞれの所属で消防の仕事に従事しています。活気の源として皆さんの暮らしを少しでも応援したい思いから活動に参加しています。

まだまだボランティアの駆けつけ待ったの声はとも多く聞かれます。ボランティアが来ることで多くの方が安心した表情をされます。一緒にやってみましょう！

リーダー：宮田 仁典

久留米市災害ボランティアセンター

「他人ごとじゃない」そんな思いが…めぐり、届く
 「これまでのつながりや文化を守りたい」地域愛が…めぐり、広がる
 「たくさんの人に支えてもらって前を向ける」人のぬくもりが…めぐり、支える
 「私のまちも助けてもらった」恩送りのやさしさが…めぐり、つながる

より多くのボランティアのお力が必要です
 あなたの「できる」が被災者の「生きる」につながります

7月24日（月）
 福岡県立福築志願高等学校サッカー部の皆さん

「暑みの予だからこそできることしよう」チームで話し合っ、ボランティアに参加しました。私たちが来たおまじいちゃんやおばあちゃんくういの家は夏だけでした。床下から水を吐いたり、床をぬいだらりーんーんーん太田に運動場しました。僕らは「幸福にうれし、みんなが来たから明日も帰れる」とお話を聞かせてくれました。高校生でもできることはたくさんあると聞きました。

リーダー：3年生 小林 雄平

6 令和5年度7月の大雨災害を経験して・閉所後の対応

災害ボランティアセンターを閉所するに際して、支援を必要とするケースの把握漏れがないように、再度、訪問聞き取りの調査を実施しました。

また、閉所後も支援が必要なケースに対応するため、以後の被災世帯への支援活動は通常のボランティアセンターで引き継ぐこととし、11月以降もニーズに対応しました。

(1) 被災世帯に対する訪問聞き取り

災害ボランティアセンター開設期間中に対応したニーズのうち、床上浸水以上の被害を受けた258世帯(16校区)を対象に本会職員が訪問聞き取りを行いました(11/1～11/5:5日間)。

その結果、122世帯で対面の聞き取りができました。対面できなかった世帯に対してもポスティングにより訪問したことを周知し、アンケートによる困りごと相談等を案内しました。この訪問調査により、被災世帯の住環境は概ね回復されたことが確認できましたが、いくつかのケースで、新たなニーズを把握し改めてボランティアセンターで対応するケース、技術系のボランティア団体に繋げるケースなどもありました。

●訪問聞き取り校区別内訳 ()内は対面数

鳥飼	上津	高良内	山本	草野	善導寺	大橋	水分
10 (4)	1 (0)	3 (1)	4 (1)	4 (0)	22 (12)	21 (11)	2 (1)
柴刈	川会	竹野	水縄	田主丸	北野	大城	犬塚
9 (4)	17 (10)	21 (13)	7 (0)	122 (55)	2 (1)	3 (2)	12 (8)

合計260(123)

(2) ボランティアセンターによる対応

センター閉所後は、通常のボランティアセンターで被災者世帯へのボランティア調整を行いました。主には、

- 1) 前述のセンター閉所後の訪問調査で把握したケース
- 2) センター閉所時に作業が完了しておらず、引き続き調整したケース
- 3) 上記2点以外で11月以降に相談、依頼が寄せられたケース等に対応しました。

●閉所後の対応状況

11月1日～3月8日現在 10件(7校区)

(内訳) 田主丸3 竹野2

高良内、善導寺、水分、犬塚、三瀧 各1

(3) 個別支援チームの対応

個別支援班では、現在も約30世帯に対して継続支援を行っています。公営住宅の一時提供を受けた世帯への転居支援、既に転居を済ませた世帯が新しい地域で孤立しないよう、地域コミュニティ組織と連携して包括的支援を行っています。

他にも長期的な支援を必要とする被災世帯は数多く、今後も相談支援機関やNPO等と連携し、被災者及び福祉課題を持つ世帯が真に生活再建ができたと思っただけのよう、寄り添った支援を継続していきます。

7 今後について

発災から8か月経過し、街並みは一応の落ち着きを取り戻したかに見えます。

しかし、転居を余儀なくされ、住み慣れた地域から離れざるを得なかった人、家屋の修繕が終わっていない人など、「以前のように」日常を取り戻したとは言えない人たちは未だに多くおられます。

また、今回の災害を契機に被災地域を精力的に訪問し聞き取りを行ったことから、様々な福祉、生活課題を抱えておられる人々のことを知ることができました。

災害ボランティアセンターとしての取組みは一応の終結を迎えましたが、今後は久留米市社会福祉協議会の本来的な使命として、困りごとや悩みを抱えた人々に寄り添い、課題解消のお手伝いをしてまいりたいと考えております。

そのために、久留米市社会福祉協議会は被災者への息の長い支援の必要性について市と協議し、令和6年1月、新たな事業「被災者相談支援事業」を受託しました。

今後も被災を契機に様々な生活、福祉課題を抱えた人々への支援を継続してまいります。

発行日 令和6年3月

発行 社会福祉法人 久留米市社会福祉協議会

〒830-0027

福岡県久留米市長門石1丁目1番34号

TEL (0942) 34-3035

FAX (0942) 34-3090

E-mail heartful@heartful-volunteer.net

URL <https://www.heartful-volunteer.net>



